

報道発表資料

 令和2年3月19日  
 独立行政法人国民生活センター

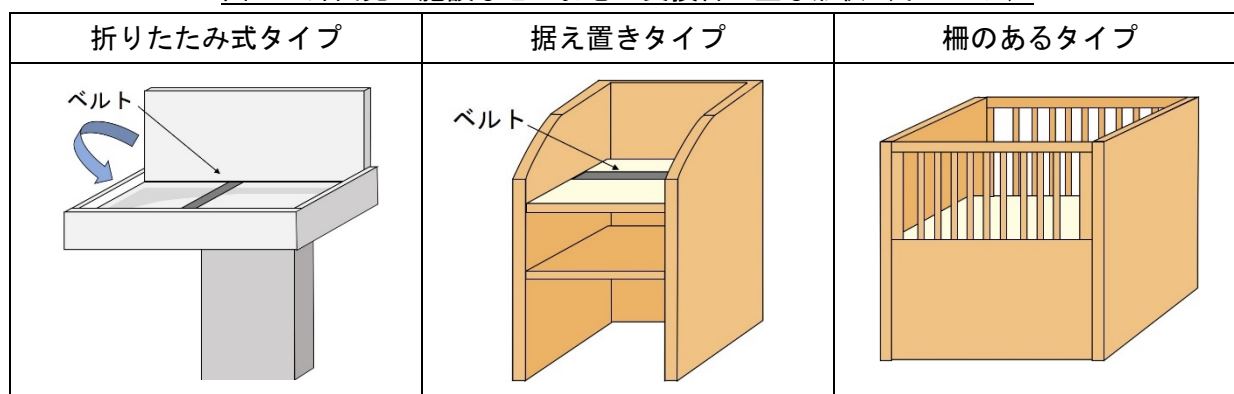
## おむつ交換台からの子どもの転落に注意！ -頭部損傷リスクが高く、入院する事例が寄せられています-

外出先で子どものおむつを替える際には、おむつ交換台（図1）は欠かせないもので、大型商業施設などのトイレやベビールームなどでよく利用されています。おむつ交換台については、子どもが転落する事故情報が寄せられており、これまでも当センターから注意喚起をしており<sup>（注1）</sup>、また、関係機関において事故防止に向けた取り組みが行われています<sup>（注2）</sup>。

医療機関ネットワーク<sup>（注3）</sup>には、2010年12月以降の約9年間（2019年12月31日までの登録分）で、外出先の施設などのおむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が、58件寄せられており<sup>（注4）</sup>、危害部位は頭部が71%（41件）を占め、そのうち8件は入院を要するものでした。

そこで、医療機関ネットワークに寄せられた事故情報を分析するとともに、消費者の利用実態を把握するためにインターネットアンケート調査を行い、利用する上での注意点について取りまとめ、消費者へ情報提供するとともに、関係機関へ要望及び情報提供を行うこととしました。

図1 外出先の施設などのおむつ交換台の主な形状（イメージ）



（注1）2007年10月5日国民生活センター公表 「折りたたみ式オムツ交換台からの転落に注意！！」

（注2）2007年7月25日に経済産業省は「施設用おむつ交換台における転落事故の防止について（要請）」、2010年12月21日に消費者庁は「おむつ交換台からの転落による事故の防止について」を公表し、事故防止のため警告表示の貼付の徹底や点検の実施等を施設管理者に要請しました。

（注3）消費者庁と国民生活センターとの共同事業で、消費生活において生命または身体に被害が生じた事故に遭い、参画医療機関を受診したことによる事故情報を収集するもので、2010年12月から運用を開始しています。

（注4）2010年12月以降受付、2019年12月31日までの伝送分。件数は本公表のために特別に精査したものです。

## 1. おむつ交換台について

おむつ交換台は、子どものおむつを交換するためのもので、様々な形状があり（図1）、主に外出先の施設などのトイレやベビールームなどに設置されています。おむつ交換台の設置に関しては、駅などの旅客施設の整備ガイドライン<sup>(注5)</sup>や、道路の整備ガイドライン<sup>(注6)</sup>では、標準的に整備することが求められており、都市公園の整備ガイドライン<sup>(注7)</sup>では、整備することが望ましいとされ、大型商業施設などの建築設計標準<sup>(注8)</sup>では、整備することが推奨されています。さらに、旅客施設の整備ガイドラインや建築設計標準では、おむつ交換台の近くに荷物置き場やゴミ箱を設置することが望ましいとされています（表）。

経済産業省や消費者庁においては、おむつ交換台から子どもが転落した事故を受けて、転落事故防止に向けた取り組みとして、公共施設や集客・商業施設などに設置されているおむつ交換台に、利用者の目に付くところへの子どもの転落に関する警告表示の貼付の徹底や点検の実施などが施設管理者に要請されています<sup>(注2)</sup>。

(注5) 国土交通省総合政策局安心生活政策課『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』（2019年10月）

(注6) 財団法人国土技術研究センター『道路の移動等円滑化整備ガイドライン』（2011年8月）

(注7) 国土交通省都市局公園緑地・景観課『都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン』（2012年3月）

(注8) 国土交通省住宅局建築指導課『高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準』（2017年3月）

**表 主な整備ガイドラインや建築設計標準における  
おむつ交換台やその周辺の整備に関する記述の抜粋<sup>(注9)</sup>**

資料名	おむつ交換台やその周辺の整備に関する主な記述の抜粋
公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン (2019年10月)	(○標準的な整備内容、◇望ましい整備内容) (便所) ○おむつ交換台を設置する。 ◇おむつ交換台を設置する場合、床面からおむつ交換台下端までの高さ70cm程度とする。また、正面開きタイプでは、幅75cm程度、奥行80cm程度、側面開きタイプでは、幅70cm程度、奥行60cm程度とすることが望ましい。 ◇おむつ交換台とあわせて荷物台やおむつ用のゴミ箱を設置する場合は、おむつ交換台の近くに設置することが望ましい。 (車椅子使用者用便房) ◇機能分散の観点から、おむつ交換台は車椅子使用者用便房以外の場所に設置することが望ましい。
高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準 (2017年3月)	(乳幼児連れに対応した便所・便房と設備は、推奨とされている。) 乳幼児連れ利用者に配慮した設備を有する便房には、乳幼児用いす、乳幼児用おむつ交換台等を設ける。 留意点：乳幼児おむつ交換台 ・乳幼児用おむつ交換台から目や手を離さずに利用できる位置に、荷物置き場やおむつ用のごみ箱等を設けることが望ましい。 ・乳幼児用おむつ交換台は落下防止措置が講じられたものとする。 ・乳幼児用おむつ交換台は乳幼児を寝かせた状態でのおむつ交換に適しており、転落等の可能性のある幼児の立位姿勢でのおむつ交換、排泄前後の着脱衣には、着替え台が適している。
都市公園の移動等円滑化整備ガイドライン (2012年3月)	(○標準的な整備内容、◇望ましい整備内容) ◇乳児連れの人の利用を考慮し、多機能便房内におむつ交換シート等を設置することが望ましい。
道路の移動等円滑化整備ガイドライン (2011年8月)	・乳児のおむつ替え用に乳児用おむつ交換シートを設置するものとする。ただし、一般トイレに男女別に設置してある場合はこの限りではない。

(注9) 便所は、手洗い場や便房を含めたトイレ全体をいい、便房は、便所内で壁に仕切られた個室部分をいいます。

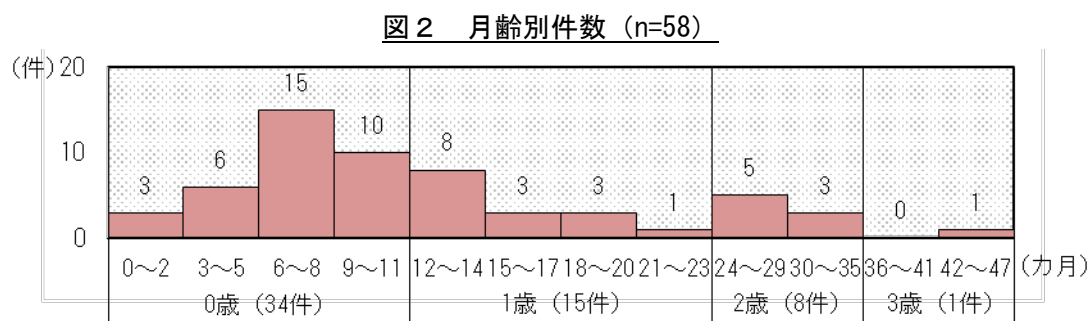
## 2. 医療機関ネットワークに寄せられた事故情報

医療機関ネットワークには、0～3歳の子どもの外出先の施設などのおむつ交換台から転落したという事故情報が、2010年12月以降の約9年間に58件寄せられています（2019年12月31日までの伝送分）。

### (1) 月齢別の事故件数

#### 寝返りができるようになり、つかまり立ちをし始める頃から事故がみられます

年齢・月齢別にみると、0～1歳が49件と全体の84%を占め、6～8カ月が15件と最も多くみられます（図2）。寝返りができるようになり、つかまり立ちをし始める頃から事故がみられます。なお、男児は30件、女児は28件で、性別に関係なく同程度事故が寄せられています。



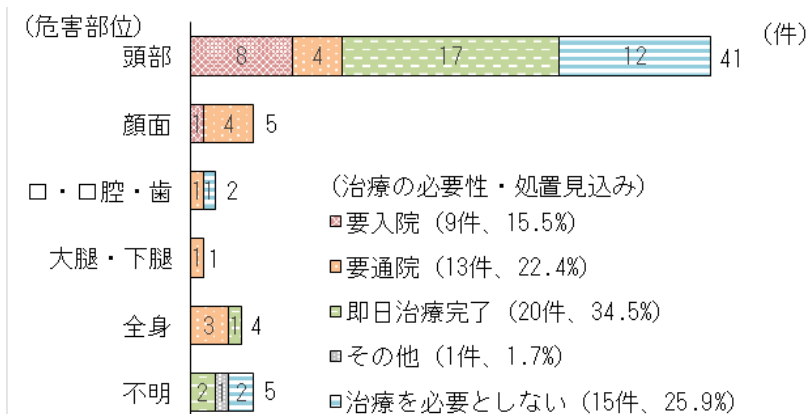
### (2) 危害部位と処置見込み

危害部位は頭部が71%を占めています。入院を要したのは9件で、そのうち8件が頭部を受傷しています

危害部位別にみると、頭部が41件と最も多く71%を占めています（注10）（図3）。

処置見込み別にみると、入院を要したのは9件（16%）で、うち8件は頭部を受傷し、7件が骨折、1件が擦過傷・挫傷・打撲傷でした。

**図3 危害部位ごとの処置見込みの内訳 (n=58)**



(注10) 各事例で複数の部位を受傷した場合、最も重い症状の部位によって集計しています。

### (3) 主な事故事例

#### 【事例1】 バッグから物を取り出そうとしていたときに子どもが転落

子育て支援施設の洗面台の横の壁に設置されたおむつ交換台に子どもを寝かせていた。おむつ交換台の周囲が高さ5cmくらいのビニールクッションで囲ってあった。保護者が数秒後ろを向いてバッグの物を取ろうとしたところ、泣き声が出たので子どもをみると床に仰向けになって泣いていた。頭頂骨及び後頭骨骨折と診断され、6日間入院した。

(事故発生年月 2019年9月、要入院、4カ月・女兒)

#### 【事例2】 手を洗っているときに子どもがおむつ交換台に立ち上がって転落

スーパーのトイレにある折りたたみ式タイプのおむつ交換台から転落した。買い物の荷物が多かったため、おむつ交換台に荷物と子どもをのせたままで手を洗った。洗面台はおむつ交換台のすぐそばにあるため、子どもを見ながら手を洗っていたが、子どもが立ち上がり、荷物をよけておむつ交換台の横隅から落ちたように見えた。保護者は支えようとしたが間に合わなかった。頭骨骨折、急性硬膜外血腫と診断され、5日間入院した。

(事故発生年月 2017年11月、要入院、1歳8カ月・男児)

#### 【事例3】 きょうだいのトイレを手伝っていたときに子どもが転落

公園で、8カ月の子どもを柵のないおむつ交換台に座らせて、きょうだいのトイレを手伝っている間、子どもに背を向けていた。子どもの泣き声が出て、気づいた時には子どもが転落して床で仰向けに倒れていた。床はコンクリートであった。頭頂骨骨折、急性硬膜外血腫及び頭部皮下血腫を負い、9日間入院した。

(事故発生年月 2016年12月、要入院、8カ月・男児)

#### 【事例4】 使用済みのおむつを捨てていたときに子どもが転落

ショッピングセンターの授乳室で、保護者が使用済みのおむつを丸めてごみ箱に捨てようとしたところ、子どもがおむつ交換台から転落し、頭部を打撲した。

(事故発生年月 2014年7月、即日治療完了、7カ月・女兒)

### 3. 利用者へのアンケート調査結果

0歳～3歳の子どもの保護者で、外出先の施設にあるおむつ交換台を利用した経験のある1,000人（男性：454人、女性：546人）を対象に、インターネットアンケート調査を行いました（詳細は、「8. 参考資料」参照）。

#### (1) おむつ交換台から子どもが落ちた（落ちそうになった）経験について（n=1,000）

46人の保護者は、子どもが落ちた経験をしており、落ちそうになった経験のある334人をあわせると、38%を占めました

おむつ交換台から子どもが落ちた（落ちそうになった）経験があるかを尋ねたところ、「落ちたことがある」が46人（5%）、「落ちそうになったことがある」が334人（33%）で、あわせて380人でした<sup>(注11)</sup>（図4）。落ちた（落ちそうになった）子どもの年齢は、男女ともに1歳が最も多く、あわせて239人で、全体の63%を占めました。

子どもが落ちたことがある46人に、医療機関を受診したかを尋ねたところ、18人（39%）が医療機関を受診していました（図5）。なお、医療機関受診の有無とけがの部位について回答のあった35人のうち、約半数にあたる17人が顔・頭部を受傷していました<sup>(注12)</sup>。

図4 おむつ交換台から子どもが落ちた（落ちそうになった）経験

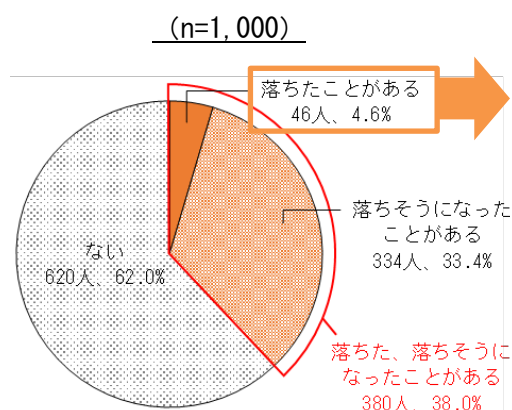
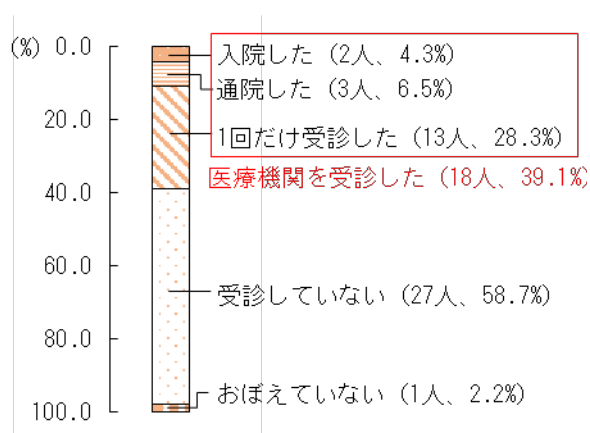


図5 おむつ交換台から落ちた子どもの医療機関受診の有無（n=46）



(注11) 「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」のいずれも経験した場合は、「落ちたことがある」を優先して回答しています。

(注12) 複数回答項目の「顔・頭部-骨折」、「顔・頭部-擦過傷・挫傷・打撲傷」、「顔・頭部-その他」のいずれかを回答した人数で、p.14のQ4の延べ人数（21人）とは異なります。

#### (2) 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときのおむつ交換台や状況について（n=380）

##### 1) 設置場所は多目的トイレが多く、形状は折りたたみ式タイプが多いことがわかりました

おむつ交換台の設置場所を尋ねたところ、「多目的トイレ」が163人（43%）と最も多く、次いで「ベビールーム」が123人（32%）でした（図6）。また、おむつ交換台の形状を尋ねたところ、「折りたたみ式ベッド」が296人（78%）と最も多く、次いで「据え置き型ベッド」が70人（18%）でした（図7）。

図6 子どもが落ちた（落ちそうになった）  
ときのおむつ交換台の設置場所 (n=380)

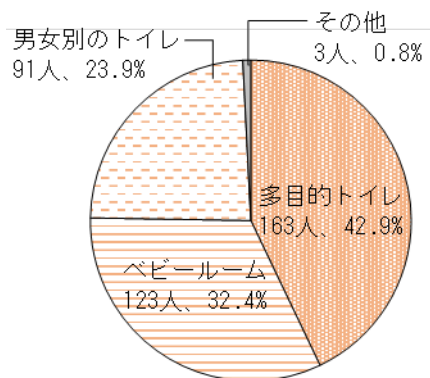
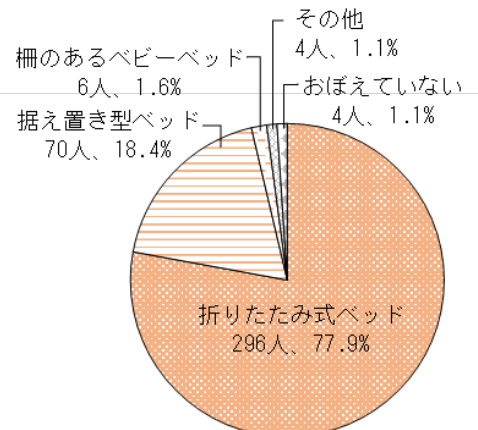


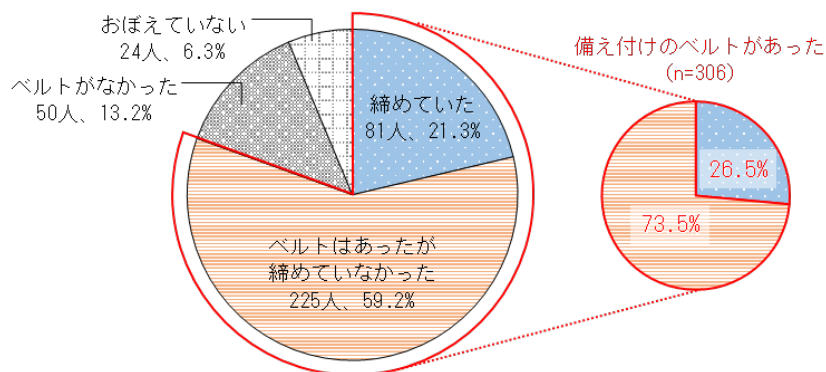
図7 子どもが落ちた（落ちそうになった）  
ときのおむつ交換台の形状 (n=380)



2) 保護者の74%が、備え付けのベルトがあったにもかかわらず締めていませんでした

ベルトを締めていたかを尋ねたところ、「締めていた」は81人であるのに対し、「ベルトはあったが締めていなかった」は225人で、あわせて306人のうち74%は備え付けのベルトがあっても締めていませんでした（図8）。

図8 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときのベルト着用の有無 (n=380)

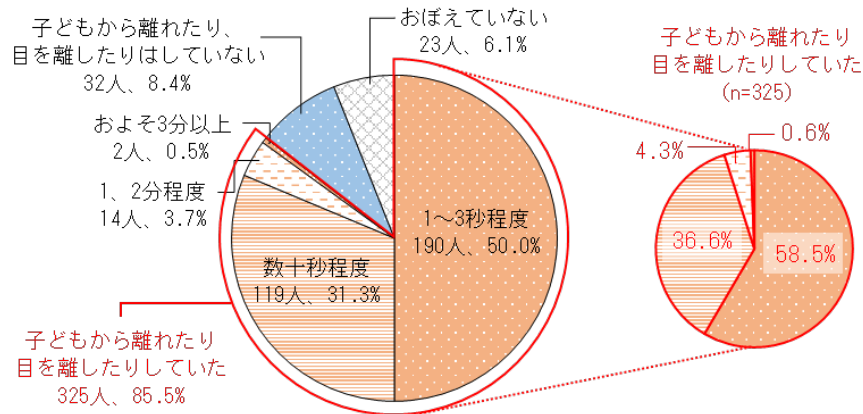


(3) 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときの保護者について (n=380)

1) 保護者の86%が、子どもから離れたり、目を離したりしていました。そのうち58%の人が、その時間は1～3秒程度と回答しました

子どもが落ちた（落ちそうになった）とき、子どもから離れたり、目を離したりしていた場合の時間を尋ねたところ、「子どもから離れたり、目を離したりはしていない」が32人（8%）である一方、「1～3秒程度」が190人（50%）、「数十秒程度」が119人（31%）、1分以上も合わせると、子どもから離れたり、目を離したりしていたのは325人（86%）でした（図9）。そのうち「1～3秒程度」は58%であり、短時間でも子どもから離れたり、目を離したりしていたときには、子どもが転落するおそれがあることがわかりました。

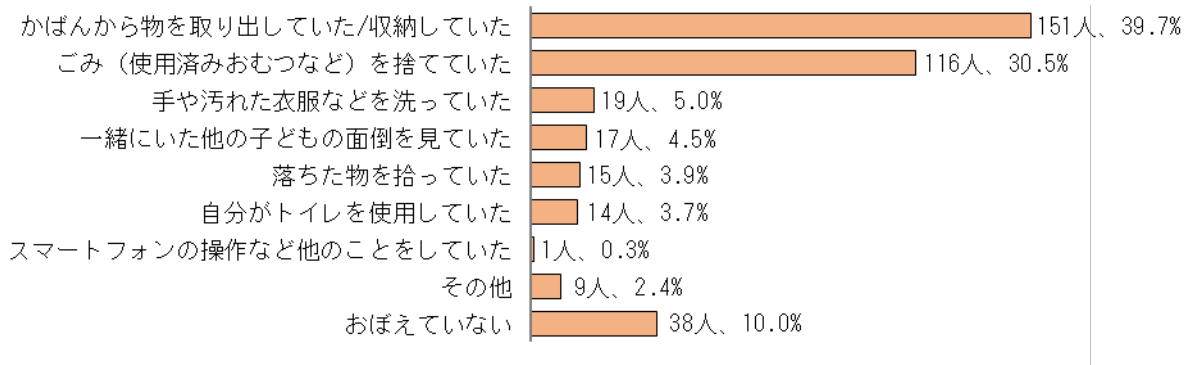
図9 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときに  
保護者が離れたり、目を離したりしていた時間（n=380）



2) 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときの状況は集中しており、保護者の70%が、かばんから物を取り出したり、おむつなどのごみを捨てたりしていました

子どもが落ちた（落ちそうになった）ときの保護者の行動を尋ねたところ、「かばんから物を取り出していた/収納していた」が151人、「ごみ（使用済みおむつなど）を捨てていた」が116人と、あわせて267人で70%を占めており、かばんから物を取り出したり、ごみを捨てたりするという状況に集中していることがわかりました（図10）。また、おむつ交換台の多くには子どもから離れたり、目を離したりしないように警告表示があるものの、「一緒にいた他の子どもの面倒を見ていた」や「自分がトイレを使用していた」との回答もありました。

図10 子どもが落ちた（落ちそうになった）ときの保護者の行動（n=380）



(4) おむつ交換台やその周辺にあれば便利・安全だと思うことについて（n=1,000）

転落防止の柵やガードおよびベルト、子どもを寝かせる広いスペースについて、また、荷物置き場やごみ箱が近くにあることなど設置環境について、あれば便利・安全だと思っ

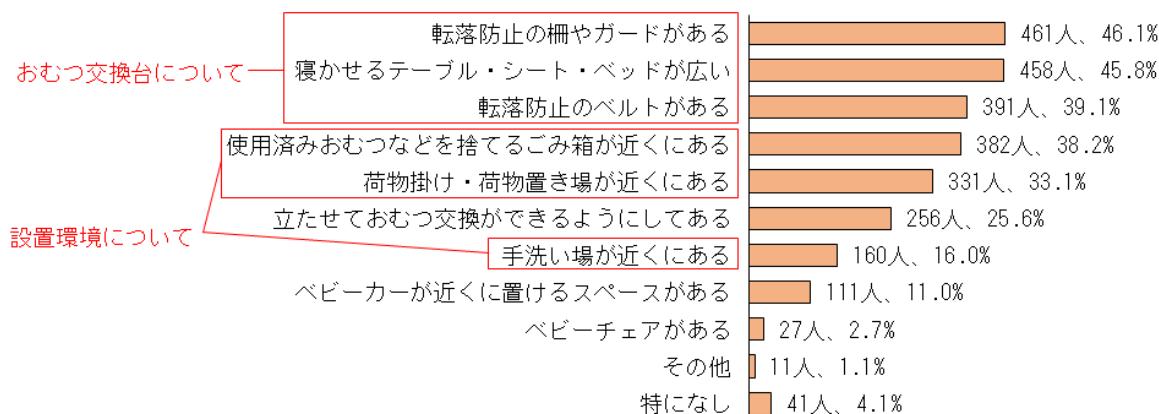
ていることがわかりました。おむつ交換台やその周辺にあれば便利・安全だと思うことを尋ねたところ、上位に「転落防止の柵やガードがある」、「寝かせるテーブル・シート・ベッドが広い」や、「転落防止のベルトがある」といったおむつ交換台に関する回答がみられました（図11）。また、次いで「使用済みおむつなどを捨てるごみ箱が近くにある」や「荷物掛け・荷物置き場が近くに



ある」といった設置環境に関する回答がみられました。その他には、「立たせておむつ交換ができるようにしてある」との回答もありました。

図 11 おむつ交換台やその周辺にあれば便利・安全だと思うこと

(n=1,000、「特になし」以外最大3つまで回答可)



#### 4. 専門家のコメント

##### (1) 転落による頭部への損傷リスクについて

東京工業大学 工学院 機械系 教授 西田 佳史 先生

0～3歳の子どもの事故で最も多いのは転倒・転落事故であり、大人より体の割合に対して頭部が大きい子どもは、頭から転落するため、頭部を受傷することが多いです。頭部への衝撃と損傷リスクの関係を分析、検討する評価基準にHIC<sup>(注13)</sup>があります。HIC値は大きいほど頭部への衝撃が大きく、増加に伴い、損傷が発生する可能性も高くなります(図12)。HIC値が1,000に達すると、致命的な頭部損傷が生じる確率が0%ではなくなり、中程度の頭部損傷(頭蓋骨の骨折や、意識喪失を伴う顔の骨折や深い切り傷など)が90%程度の確率で生じるとされており、頭部損傷の予防を考える上での目安として広く受け入れられています。

国立研究開発法人産業技術総合研究所で実施した子どもの転落・転倒事故の分析では、1歳児が床と水平な状態(寝かせた状態)で転落したと想定してシミュレーションした場合の転落高さ及び落下したときの床材、HIC値の関係が算出されています(図13)。『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』では、床面からおむつ交換台下端までの高さは70cm程度とされています。床材は設置場所により様々ですが、70cmから落下すると、硬いコンクリートではHIC値は1,000を超え、フローリングの硬さでも1,000近くになります。また、おむつ交換台の上で子どもが立ち上がった場合には、落下高さがさらに高くなるため、より損傷リスクが高まります。

(注13) Head Injury Criterion: 頭部損傷基準値といい、重篤な損傷の起きやすい頭部に注目した損傷リスクの評価基準です。HIC値が大きいほど頭部への衝撃が大きく、頭部損傷が発生する可能性も高くなります。欧州規格EN1177では、遊具の下の地表面の衝撃減衰力の評価値として採用されています。



図12 HIC値に対する  
頭部損傷レベルの確率 (注14)

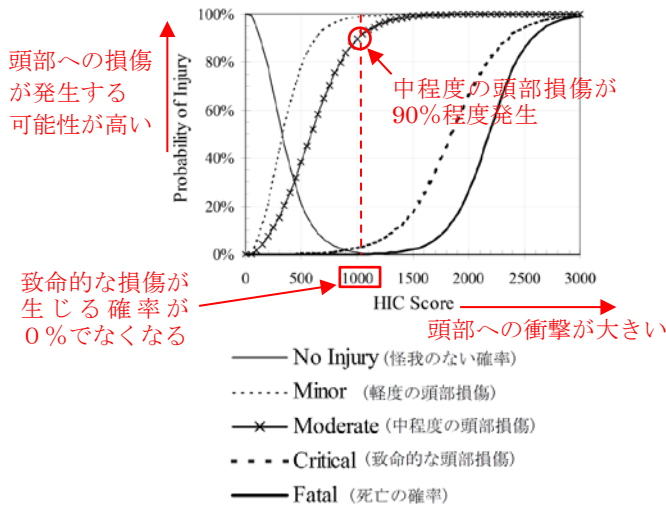
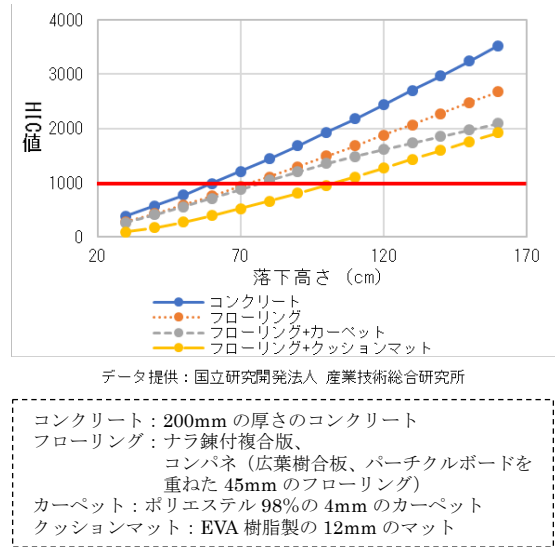


図13 1歳児が転落した場合の転落高さ  
及び落下した床材とHICの関係



(注14) 中野正博、松浦弘幸、玉川雅章、山中真、行正徹 (2010) 『頭部損傷基準値 (HIC) の理論的分析』バイオ・ファジィ・システム学会誌 vol.12 No.2 pp.57-63 より一部改変

## (2) 子どもから離れない、目を離さない環境について

東洋大学 ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科 准教授 仲 綾子 先生

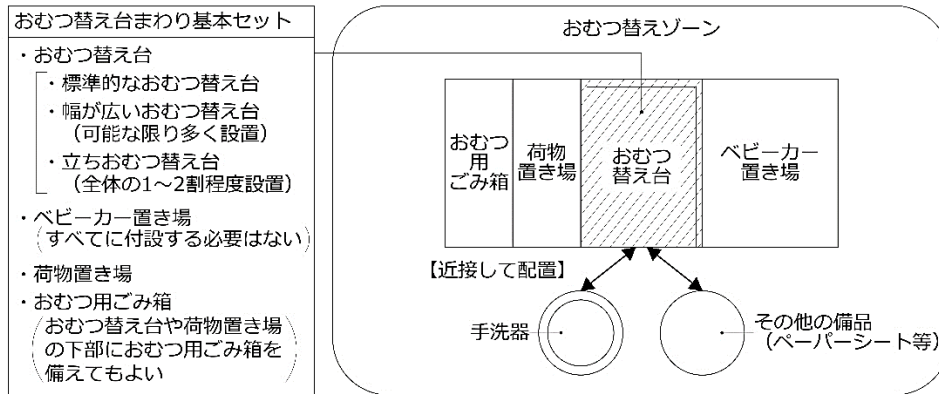
子育てにおけるバリアフリーの推進の一環として、外出先にはおむつ交換ができる場所の整備が積極的に進められているものの、実際には使いにくく居心地の悪い状況は未だ少なくありません。転落の危険性を考えると、子どもの安全性の確保は、なによりも優先すべき前提条件となります。おむつ交換台については、利用者が子どもから目を離さないことには限界があり、事故を防ぐには、子どもから目を離さないですむ環境の整備が有効です。例えば、利用者が子どもに手が届く範囲で、おむつ交換に関する一連の作業が完結する環境が望ましいと考えられます。

おむつ交換台を含めたベビー休憩室における利用者の行動観察調査 (注15) を行ったところ、おむつ交換台周辺の環境に関する課題がうかがえました。利用者は総じて荷物が多いことや、ごみを捨てる行為がおむつ交換に付随していることから、おむつ交換台と荷物置き場やおむつ用のごみ箱を基本セットとして考えて、近接して配置することが重要です (図14)。

また、行動観察調査からは、利用者が注意すべき点もうかがえました。本来子どもを寝かせて利用するおむつ交換台に立たせていた事例が多くみられることや、備え付けのベルトがほとんど利用されていないこともわかりました。利用者側は、子どもをおむつ交換台に立たせない、ベルトは必ず利用する等、適切に利用することが求められます。同時に、製造事業者側は、ベルトの装着方法など、利用者が想定通りに利用しやすい商品を目指して常に改善していくことが重要です。

(注15) 仲綾子、谷口新 (2016) 『複合商業施設における行動観察調査に基づくおむつ替えゾーンを中心としたベビー休憩室の利用実態と計画課題』日本建築学会計画系論文集 第81巻 第724号、pp.1259-1268

図 14 おむつ交換台まわりの基本セット (注 15 より一部改変)



## 5. 消費者へのアドバイス

- (1) 保護者がかばんから物を取り出したり、おむつなどを捨てる時など、1~3秒程度の短時間でも、子どもは動いて転落するおそれがあることがわかりました。おむつ交換台にのせる際には事前に準備し、子どもをおむつ交換台から降ろした後に片付けやごみ捨てをする、また、備え付けのベルトを必ず利用するなどして転落事故を防止しましょう

アンケート調査結果では、おむつ交換台から子どもが落ちた(落ちそうになった)ときの状況を尋ねたところ、保護者の86%は、子どもから離れたり、目を離したりしており、うち58%の人が、その場合の時間を1~3秒程度と回答しました。さらに、保護者が、かばんから物を取り出したり、おむつなどのごみを捨てる状況に集中していることもわかりました。

利用はおむつ交換時だけとし、おむつ交換台にのせる際には、おむつやおしり拭きなど必要なものを事前に準備し、子どもをおむつ交換台から降ろした後に片付けや使用済みおむつなどのごみを捨てるなどし、子どもから離れたり、目を離したりしないようにしましょう。また、備え付けのベルトがある場合は必ず利用するなどして、転落事故を防止しましょう。

- (2) おむつ交換台から転落すると頭部への損傷リスクが高く、大変危険です。転落して頭部を打った場合には、医療機関を受診しましょう

医療機関ネットワークには、0~3歳の子どもが外出先の施設などのおむつ交換台から転落したという事故情報が寄せられており、なかには頭部を受傷して入院した事例がみられます。また、『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』では、床面からおむつ交換台下端までの高さは70cm程度とされていますが、例えば70cmの高さのおむつ交換台から硬いコンクリートに転落した場合にはHIC値は1,000を超え、中程度の頭部損傷が90%程度の確率で生じるとされており、大変危険です。さらに、特に床面が硬かったり、子どもが立った状態で転落した場合は、そのリスクがより高まります。子どもが頭部を打った場合には医療機関を受診しましょう。

## 6. 事業者への要望

おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。より安全なおむつ交換台の開発・普及を要望します。また、転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へのさらなる啓発を要望します

おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられており、なかには頭部を受傷して入院した事例がみられます。今回のアンケート調査結果から、保護者は、転落防止の柵やガードおよびベルト、子どもを寝かせる広いスペースがあれば便利・安全だと思っていることがわかりました。子どもの転落事故を防ぐため、より安全なおむつ交換台の開発や普及を要望します。また、転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へのさらなる啓発を要望します。

## 7. 行政への要望

(経済産業省 製造産業局 生活製品課、商務情報政策局 産業保安グループ 製品安全課)

(1) おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。より安全なおむつ交換台の開発・普及がされるよう製造事業者への指導を要望します。また、転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へのさらなる啓発がされるよう製造事業者への指導を要望します

おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられており、なかには頭部を受傷して入院した事例がみられます。今回のアンケート調査結果から、保護者は、転落防止の柵やガードおよびベルト、子どもを寝かせる広いスペースがあれば便利・安全だと思っていることがわかりました。子どもの転落事故を防ぐため、より安全なおむつ交換台の開発や普及がされるよう製造事業者への指導を要望します。また、転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へのさらなる啓発がされるよう製造事業者への指導を要望します。

(厚生労働省 子ども家庭局 母子保健課、経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 消費・流通政策課、国土交通省 総合政策局 安心生活政策課)

(2) おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。アンケート調査結果からは、保護者の86%は、子どもから離れたたり、目を離したりしており、うち58%の人は、その場合の時間が1～3秒程度であったことがわかりました。子どもの転落事故防止のために、保護者が子どもから離れたたり、目を離したりしないで、安全におむつ交換ができる環境が整備できるよう施設管理者への周知を要望します

おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。今回のアンケート調査結果から、保護者の86%は、子どもから離れたたり、目を離したりしており、うち58%の人は、その場合の時間が1～3秒程度であったことがわかりました。さらに、保護者がかばんから物を取り出したりごみを捨てる状況に集中していることもわかりました。

また、『公共交通機関の旅客施設に関する移動等円滑化整備ガイドライン』や『高齢者、障害者等の円滑な移動等に配慮した建築設計標準』には、おむつ交換台の近くに荷物置き場やごみ箱を設置することが望ましいなどとされています。

おむつ交換台からの子どもの転落事故防止のために、保護者が子どもから離れたり、目を離したりしないで、安全におむつ交換ができる環境が整備できるよう施設管理者への周知を要望します。

(消費者庁 消費者安全課)

**(3) おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へ引き続き啓発を要望します**

経済産業省や消費者庁から、子どもの転落に関する警告表示の貼付の徹底や点検の実施などを、施設管理者に要請しているところですが、おむつ交換台からの子どもの転落事故の情報が寄せられています。また、今回のアンケート調査結果でも、38%の人がおむつ交換台から落ちた、あるいは落ちそうになったことがありました。転落事故の危険性や利用する上での注意点について、消費者へ引き続き啓発を要望します。

**○要望先**

消費者庁 消費者安全課	(法人番号5000012010024)
厚生労働省 子ども家庭局 母子保健課	(法人番号6000012070001)
経済産業省 製造産業局 生活製品課	(法人番号4000012090001)
経済産業省 商務情報政策局 商務・サービスグループ 消費・流通政策課	(法人番号4000012090001)
経済産業省 商務情報政策局 産業保安グループ 製品安全課	(法人番号4000012090001)
国土交通省 総合政策局 安心生活政策課	(法人番号2000012100001)

**○情報提供先**

内閣府 子ども・子育て本部	(法人番号2000012010019)
内閣府 消費者委員会事務局	(法人番号2000012010019)
厚生労働省 子ども家庭局 総務課	(法人番号6000012070001)
国土交通省 住宅局 建築指導課	(法人番号2000012100001)
国土交通省 都市局 公園緑地・景観課	(法人番号2000012100001)
一般財団法人 国土技術研究センター	(法人番号4010405000185)
一般社団法人 日本トイレ協会	(法人番号5010005025433)

扱い：本資料につきましては3月19日の記者説明会開催後に解禁といたします。

本件問い合わせ先

商品テスト部：042-758-3165

## 8. 参考資料

### アンケート集計結果

実施時期：2020年1月

調査方法：調査会社の登録モニターを対象としたインターネットアンケート

調査対象：現在0～3歳の子どもの保護者で、外出先の施設などのおむつ交換台（寝かせるタイプ。ベッドタイプを含む）を利用したことがある人

対象人数：1,000人（男性：454人、女性：546人）

対象年齢：22～55歳

※割合は、小数第2位を四捨五入しているため、内訳の合計が100.0%にならない場合があります。

Q1. （全員）以下の外出先の施設に行った場合について、おむつ交換台を利用する頻度について、施設ごとにお答えください。（単一選択）

回答者数 %	よく 利用する	まあまあ 利用する	あまり 利用しない	まったく 利用しない	全体
大型商業施設・ショッピングモール・デパートなど	471 47.1	438 43.8	81 8.1	10 1.0	1,000 100.0
スーパーマーケット	119 11.9	253 25.3	374 37.4	254 25.4	1,000 100.0
飲食店（レストランなど）	93 9.3	393 39.3	372 37.2	142 14.2	1,000 100.0
保健所・公民館・児童館・図書館	98 9.8	316 31.6	380 38.0	206 20.6	1,000 100.0
大規模な公園（敷地面積が広い、遊具・アスレチックが充実しているなど）	71 7.1	224 22.4	390 39.0	315 31.5	1,000 100.0
動物園・水族館・テーマパークなど	108 10.8	441 44.1	333 33.3	118 11.8	1,000 100.0
駅・ターミナル	60 6.0	231 23.1	391 39.1	318 31.8	1,000 100.0
高速道路のサービスエリアなど	96 9.6	307 30.7	358 35.8	239 23.9	1,000 100.0

Q2. （全員）外出先のおむつ交換台から、子どもが落ちた、あるいは落ちそうになったことはありますか。（両方ある場合は「落ちたことがある」を選択してください）。（単一選択）

	回答者数	%
落ちたことがある ⇒Q3へ	46	4.6
落ちそうになったことがある ⇒Q5へ	334	33.4
ない ⇒Q13へ	620	62.0
全体	1,000	100.0

※Q2で「落ちたことがある」を選択した方はQ3～Q12、Q2で「落ちそうになったことがある」を選択した方はQ5～Q12について、最も危険だと思った経験を振り返って回答してください。

Q3. (Q2で「落ちたことがある」を選択した方にお聞きします) そのときのあなたの行動について教えてください。

子どもが落ちたことを受けて、医療機関を受診しましたか。(単一選択)

	回答者数	%
入院した	2	4.3
通院した	3	6.5
1回だけ受診した	13	28.3
受診していない	27	58.7
おぼえていない	1	2.2
全体	46	100.0

Q4. (Q3で「おぼえていない」以外を選択した方にお聞きします) そのときの子どものけがについて教えてください。

落ちたことを受けて、子どもは主にどの部位にどのようなけがを負いましたか。(「おぼえていない」を除き、複数選択可)

	回答者数	%
顔・頭部－骨折	4	8.9
顔・頭部－擦過傷・挫傷・打撲傷	6	13.3
顔・頭部－その他	11	24.4
手・腕－骨折	1	2.2
手・腕－擦過傷・挫傷・打撲傷	2	4.4
手・腕－その他	4	8.9
胴体－骨折	0	0.0
胴体－擦過傷・挫傷・打撲傷	4	8.9
胴体－その他	1	2.2
足・脚－骨折	1	2.2
足・脚－擦過傷・挫傷・打撲傷	1	2.2
足・脚－その他	2	4.4
その他	8	17.8
おぼえていない	10	22.2
全体	45※	100.0

※延べ人数ではありません。



Q5. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのとき落ちた(落ちそうになった)子どもについて教えてください。

子どもの性別をお答えください。(単一選択)

	回答者数	%
男の子	233	61.3
女の子	147	38.7
全体	380	100.0

Q6. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのとき落ちた(落ちそうになった)子どもについて教えてください。

子どもの当時の年齢をお答えください。(数値選択)

	回答者数	%
0歳	67	17.6
1歳	239	62.9
2歳	68	17.9
3歳	6	1.6
全体	380	100.0

Q7. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのときの状況について教えてください。

おむつ交換台が設置されていた場所をお答えください。(単一選択)

	回答者数	%
多目的トイレ (車いす使用者のための設備などがあるトイレ)	163	42.9
男女別のトイレ	91	23.9
ベビールーム (ベビー休憩室、授乳室など)	123	32.4
その他	3	0.8
全体	380	100.0

Q8. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのときの状況について教えてください。

おむつ交換台はどのような形状でしたか。(単一選択)

	回答者数	%
折りたたみ式ベッド (閉じたテーブル・シートを利用時に広げるもの)	296	77.9
据え置き型ベッド (子どもの頭側と側面にのみガードがあるもの)	70	18.4
柵のあるベビーベッド(全方面に柵があるもの)	6	1.6
その他(自由記述)	4	1.1
おぼえていない	4	1.1
全体	380	100

Q9. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのときの状況について教えてください。

おむつ交換台のベルトは締めていましたか。(単一選択)

	回答者数	%
締めていた	81	21.3
ベルトはあったが締めていなかった	225	59.2
ベルトがなかった	50	13.2
おぼえていない	24	6.3
全体	380	100.0

Q10. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのとき落ちた(落ちそうになった)子どもについて教えてください。

おむつ交換台から落ちた(落ちそうになった)とき、子どもは何をしていましたか。(単一選択)

	回答者数	%
寝かせていた子どもが動いた(寝返りなど)	142	37.4
寝かせていた子どもが、立ち上がって動いた	163	42.9
立たせていた子どもが動いた	65	17.1
おぼえていない	2	0.5
その他(自由記述)	8	2.1
全体	380	100.0

Q11. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのときのあなたの行動について教えてください。

おむつ交換台から落ちた(落ちそうになった)とき、あなたは何をしていましたか。(単一選択)

	回答者数	%
落ちた物を拾っていた	15	3.9
かばんから物を取り出していた/収納していた	151	39.7
ごみ(使用済みおむつなど)を捨てていた	116	30.5
手や汚れた衣服などを洗っていた	19	5.0
一緒にいた他の子どもの面倒を見ていた	17	4.5
自分がトイレを使用していた	14	3.7
スマートフォンの操作など他のことをしていた	1	0.3
その他(自由記述)	9	2.4
おぼえていない	38	10.0
全体	380	100.0

Q12. (Q2で「落ちたことがある」、「落ちそうになったことがある」を選択した方にお聞きします) そのときのあなたの行動について教えてください。

あなたが子どもから離れていた、または目を離していた場合、それはどれくらいの時間だったと思いますか。(単一選択)

	回答者数	%
1～3秒程度	190	50.0
数十秒程度	119	31.3
1、2分程度	14	3.7
およそ3分以上	2	0.5
子どもから離れたり、目を離したりはしていない	32	8.4
おぼえていない	23	6.1
全体	380	100.0

Q13. (全員) 外出先のおむつ交換台から子どもが転落する危険性を知っていますか。(単一選択)

	回答者数	%
よく知っている	262	26.2
だいたい知っている	437	43.7
あまり知らない	239	23.9
まったく知らない	62	6.2
全体	1,000	100.0

Q14. (全員) 外出先のおむつ交換台やその周辺に、特にあれば便利・安全だと思うことを上位3つまでお答えください。(最大3つまで選択可、「特になし」のみ単一選択)

	回答者数	%
転落防止のベルトがある	391	39.1
転落防止の柵やガードがある	461	46.1
寝かせるテーブル・シート・ベッドが広い	458	45.8
荷物掛け・荷物置き場が近くにある	331	33.1
使用済みおむつなどを捨てるごみ箱が近くにある	382	38.2
手洗い場が近くにある	160	16.0
ベビーカーが近くに置けるスペースがある	111	11.1
立たせておむつ交換ができるようにしてある	256	25.6
ベビーチェアがある	27	2.7
その他(自由記述)	11	1.1
特になし	41	4.1
全体	1,000※	100.0

※延べ人数ではありません。